

2016年を振り返って

市長短信
H28年12月26日

1 「種」が芽吹いた2016年

■今年スタートした主な取組

- 長期総合計画後期基本計画
- 個人番号カードによる「諸証明コンビニ交付」開始
- 市営渡船「ひめしま」の新船就航
- 九州大学ヘルスケアシステムLABO糸島(ふれあいラボ) 開所
- 伊都文化会館多目的ルームオープン
- 交流プラザ二丈館・志摩館オープン
- ママトコワーキングオフィスオープン
- 小学校中学年英語教育の先行実施
- 「いとしま学」を活用した授業
- 「いとしま星空ナビゲーター」による「いとしま天文台」運営
- 「いとゴン食堂」
- 「糸島市食品クラスター協議会」
- 人工知能(AI)を活用した移住相談の実証実験
- 瑞梅寺ダム小水力発電所

⇒これまでの取組でまいてきた「種」が、徐々に芽吹いてきた。
これからの事業展開で、大きく花を咲かせたい。

■その他にも、さまざまなできごとが

- 観光入込客数580万人を突破(県推計調査結果発表)
- 弥生時代中・後期頃のものと思われる「石硯」が出土(2例)
- 泉川の「ハマボウ」県の天然記念物に指定
- 熊本地震の発生、被災地支援の実施
- 相模女子大学、相模女子大学短期大学部との連携協力協定
- トリゼンフーズ株式会社との立地協定締結
- 平成27年国勢調査の結果発表
- 「きららの湯」民間譲渡の決定 など

⇒他の団体、機関等との連携で生まれた取組が多かった印象。
今後、さらに連携を深め、取組の幅を広げていきたい。



2017年に向けて

1 2017年は「花開く飛躍の年」に

■市長任期4年目を迎えるにあたって

- 2017年2月から市長任期4年目がスタートする。
- これまでの取組でまいてきた種が、これから大きく花を咲かせる。
- そのためにも、さまざまな課題に解決の道筋を付け、今後の市政運営がより安定したものとなるように取組を進めたい。

【 2017年 力を入れる主な取組 】

◆人口減少への対策を強化

- ・平成32年102,000人達成に向けた道筋を示す。
- ・定住促進の具体策を充実させる。
- ・人口減少地域の活性化策の検討結果を生かした取組
- ・移住支援（移住候補地支援システム、糸島生活体験など）

◆行財政健全化に向けて

- ・仕事総点検の結果に基づいた行動計画（廃止、委託、補助金の見直しなど）
- ・大型事業の実施を含めた財政見通しを示す。

◆生活環境を充実するために

- ・公共施設等総合管理計画策定（運動公園、庁舎、教育施設などの今後の管理について、具体的な計画を策定する。）
- ・深江駅、新駅周辺整備
- ・住居表示整備

◆安全安心のまち、災害に強いまちづくりのために

- ・地域防災計画の見直し（受援体制、避難計画、業務継続計画）
- ・災害対策拠点、避難所の強化・充実
- ・原子力災害広域避難個別計画の実効性向上（避難訓練実施、安定ヨウ素剤配布、国県等への働きかけ等）

◆子育て支援・教育環境の充実

- ・子どもの貧困予防対策
- ・ファミリーサポートセンターの検討
- ・学校施設整備（加布里小大規模改修等）
- ・コミュニティスクール実施
- ・「いとしま学」を活用した取組拡充

◆高齢者福祉・健康づくり支援の充実

- ・小学校区単位の健康づくり支援
- ・地域包括ケアシステムの推進

◆九大連携・学術研究都市づくりに向けて

- ・連携研究事業、組織対応型連携研究等の実施
- ・前原北部地域まちづくり構想策定

◆産業振興策の充実

- ・農林水産業の後継者育成支援
- ・耕作放棄地対策
- ・仕事づくりプロジェクト、企業と就業者のマッチング
- ・食品産業クラスター事業補助
- ・地域おこし協力隊の活用
- ・糸島市版DMO設立支援事業